

4 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(四枚のうち一)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

□ あとの問一～問八に答えなさい。

問一 次のア～オの読みをそれぞれ平仮名で書きなさい。

ア 柳葉筆 イ 薦季直表 ウ 祝允明 エ 居延漢簡 オ 歙州硯

問二 次のア～オは、書道に関連のある語です。それぞれの説明を簡潔に書きなさい。

ア 連綿 イ 書丹 ウ 背臨 エ 文房四宝 オ 絹本

問三 次のア～オは、書道に関連のある語の説明です。それぞれ何について述べたものか書きなさい。

- ア 活字体に対する語で、書写上の利便さから書き慣らされ、伝統的に受け継がれている書き方。
- イ 書や絵画等を納める箱に、作品の主題、年月日、作者名、所有者名などを書くこと、また、書かれた言葉のこと。
- ウ 仮名で、行の長さや高さ、行間などを変化させながら書く書き方。
- エ 刻字された木・石等の表面に用紙を当て、石花墨、釣鐘墨等で縁をこすって、文字文様などを写しとる拓本の方法。
- オ 起筆の際、穂先が線の外側に現れる書き方。

問四 落款について、次のア～エに答えなさい。

- ア 落款という語は何の略ですか。漢字四字で書きなさい。
- イ 落款印にはどのような役割がありますか。簡潔に二つ書きなさい。
- ウ 次の図は、ある落款印を押印したときの印影を読む順を示したものです。図の順で印影の文字が読めるようにする文字の配置法を何と言いますか。書きなさい。

2	1
3	4

エ 印面に印泥を付けて押印する際、どのようなことに注意する必要がありますか。印泥を付ける際と押印をする際について、それぞれ簡潔に書きなさい。

問五 次の図版①～⑤に書かれている文字を、それぞれ常用漢字の字体で書きなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

4 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(四枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

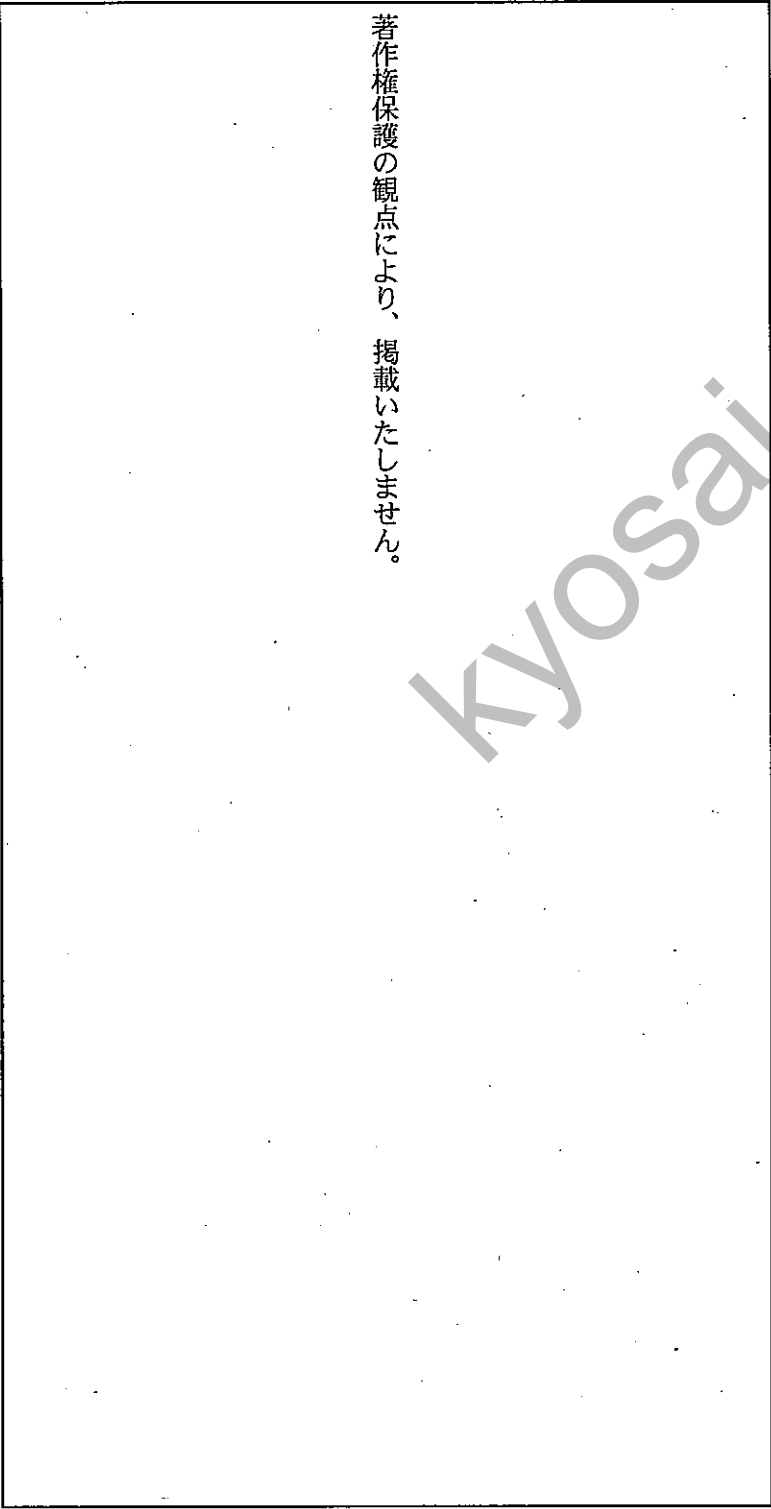
問六 「風信帖」について、次のア・イに答えなさい。

ア 次の文章は、「風信帖」について述べたものです。文章中の [a] [d] にあてはまる語をそれぞれ書きなさい。

「風信帖」は、平安時代初期の高僧である空海が [a] に宛てた書状三通を一巻に仕立てたものの総称で、冒頭に「風信雲書」とあるところから、後世このように呼ばれている。一般には、三通あわせて「風信帖」と言っているが、第一通を「風信帖」、第二通を [b]、第三通を [c] と区別して言いつてもある。その書は、筆力に満ちた変化に富む書風であり、[d] や顔真卿の影響がみられる。

イ 平安時代に、空海とともに「三筆」と呼ばれた人物が二人います。その人物名をそれぞれ書きなさい。

問七 次の図版①～③は「粘葉本和漢朗詠集」の一部です。あとのア～エに答えなさい。



- ア 図版①の書跡の装丁は粘葉装といわれるものです。粘葉装の説明を簡潔に書きなさい。
- イ 図版①の書風の特徴を簡潔に書きなさい。
- ウ 図版②は、図版①の一部を拡大したものです。書かれている字はどう読みますか。その読みを平仮名で書きなさい。
- エ 図版③は、図版①の一部を拡大したものです。それぞれの仮名について、その字源をそれぞれ楷書で書きなさい。

4 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

(四枚のうち三)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

問八 次のア・イに答えなさい。

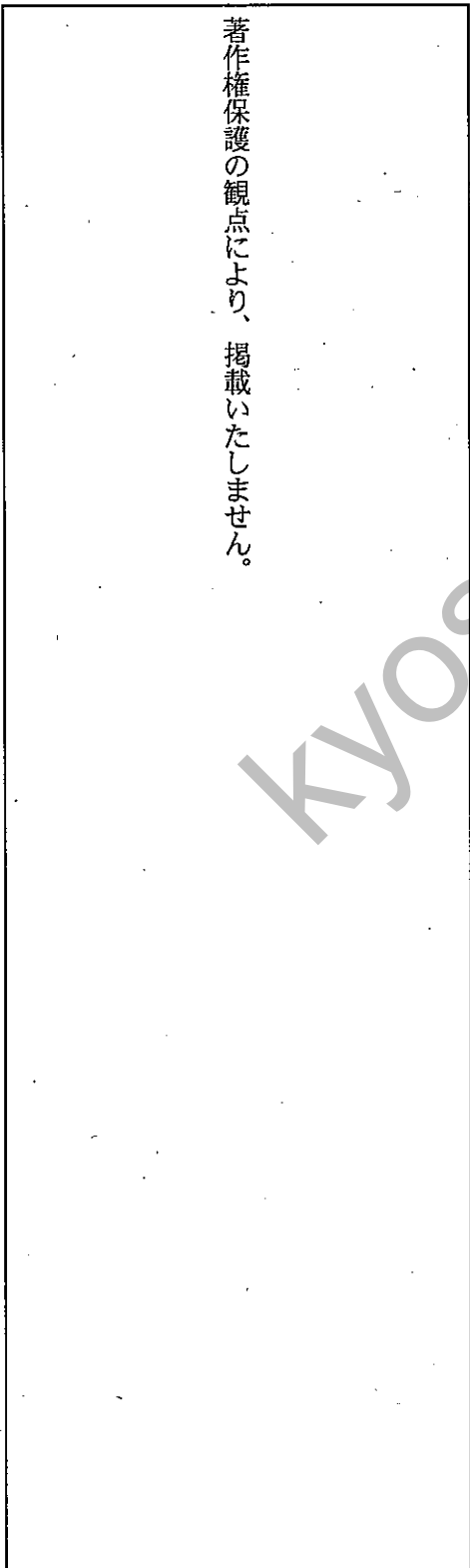
ア 次の文章は、清の康熙帝の「佩文齋書画譜」の一節です。この文章の内容を簡潔に書きなさい。

書字貴平正安穩。先須用筆。

イ 次の文は、清の黄易の「得自在禪」の印跋の一部です。この文の内容を簡潔に書きなさい。

漢印有隸意、故氣韻生動。

二 次の図版①は「顔氏家廟碑」の一部です。「書道I」の授業において、この図版を用いた表現及び鑑賞の授業を行うこととします。あとの問一・問二に答えなさい。



著作権保護の観点により、掲載いたしません。

問一 鑑賞をする際に、図版①と図版②の「雁塔聖教序」とを比較させることとします。どのような鑑賞の観点で、どのような内容に注目させる必要がありますか。鑑賞の観点を三つあげ、それぞれの内容を書きなさい。ただし、内容については、図版①・②の違いを明確にして書きなさい。

問二 図版①及び他の楷書の古典を踏まえて「友情」という語を表現させることとします。図版①・②とは異なる楷書の古典の書跡名を一つあげ、図版①の書風を生かした表現との違いを明確にして、それぞれの表現意図及び表現効果を書きなさい。

4 高等学校 芸術科 (書道) 問題用紙

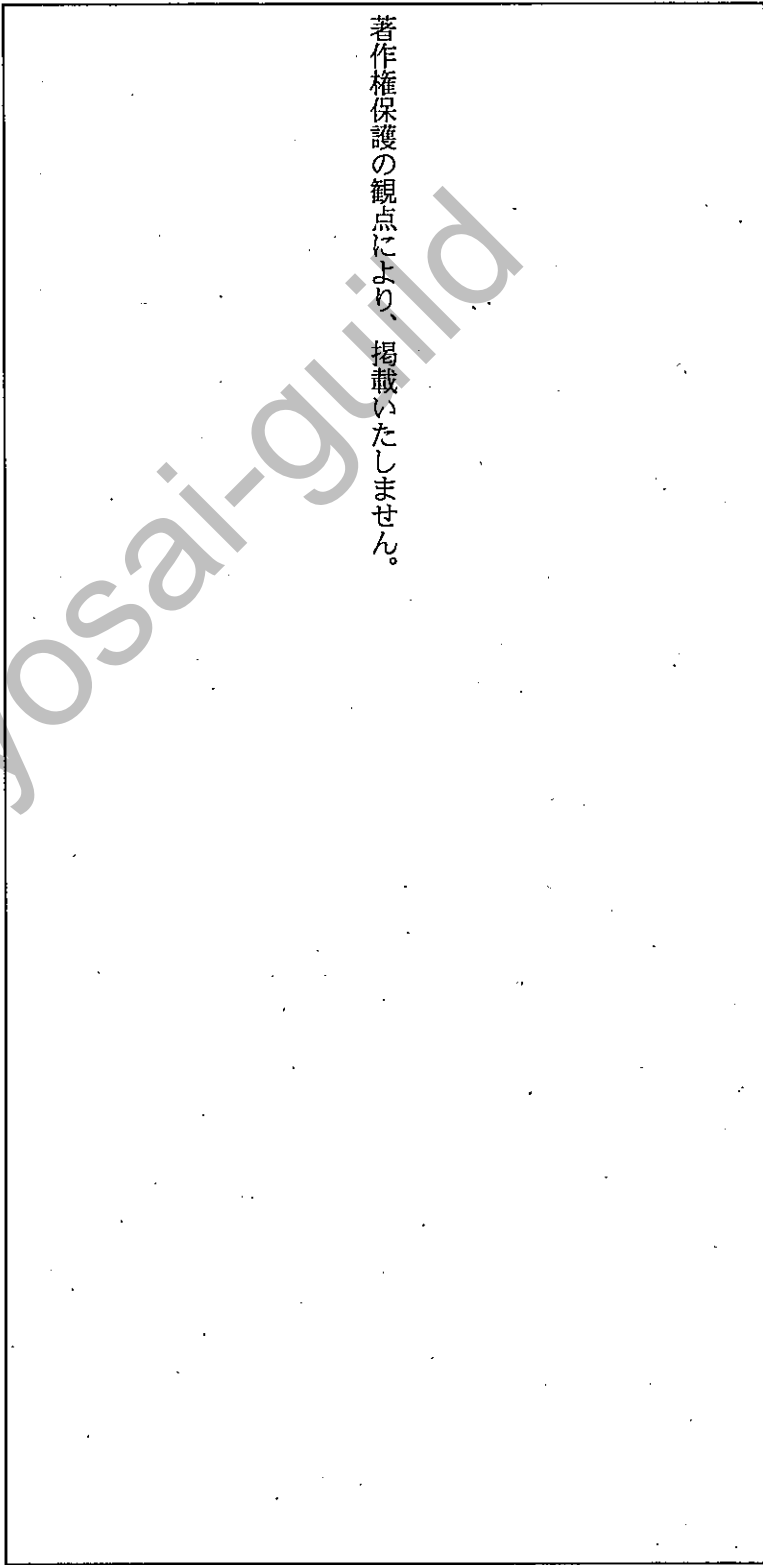
(四枚のうち四)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(答えは、すべて解答用紙に記入すること。)

三 「書道Ⅱ」において、次の「乙瑛碑」の図版を用いて、「古典に基づく表現を工夫し、個性的に表現すること」を目標とした授業を行ってください。あとの問一・問二に答えなさい。

著作権保護の観点により、掲載いたしません。



問一 目標を達成するために、図版を用いて鑑賞、臨書を学習させたのち、この書跡をもとに、ポスターに使用する「体育祭」の題字を半紙で制作させる学習指導を行うこととします。第一次から第四次までの全八時間で行う場合、どのような単元計画を設定しますか。第一次から第四次までの配当時間、学習活動及び指導上の留意事項をそれぞれ簡潔に書きなさい。

問二 模範例となる「体育祭」の題字の草稿を、「乙瑛碑」の特徴を生かし、体育祭のポスターに使用する題字であることを想定して筆で書いたようにかきなさい。なお、解答欄を半紙大の用紙に見立てて使用し、文字の向きは、縦書き、横書きのどちらでもよいこととします。

四 平成三十年三月告示の高等学校学習指導要領 芸術 書道Ⅰ 内容 B 鑑賞 (1)鑑賞 ア には、「鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)について考え、書によさや美しさを味わって捉えること。」と示されています。「(ア)作品の価値とその根拠」の指導に当たっては、どのようなことに留意する必要がありますか。簡潔に二つ書きなさい。

4

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち二)

受験番号	
氏名	

二													問題番号		
問五	問四				問三		問二					問一		解答欄	
①	エ	ウ	イ	ア	エ	ア	オ	エ	ウ	イ	ア	エ	ア		
②	押印をする際	印泥を付ける際													
③													オ	イ	
④															
⑤															
⑤														ウ	

4

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち二)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題番号						解答欄	
問八		問七				問六	
イ	ア	エ	ウ	イ	ア	イ	ア
							a
							b
							c
							d

4

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち三)

受験番号

氏名

解答欄

問題番号		問一		問二	
鑑賞の観点	内容	鑑賞の観点	内容	書跡名	表現意図及び表現効果
鑑賞の観点	内容	鑑賞の観点	内容		

4

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち四)

受験番号

氏名

問題番号

解答欄

問題番号			
問題			
次	配当時間	学習活動	指導上の留意事項
一			
二			
三			
四			

4

高等学校 芸術科 (書道) 解答用紙

(五枚のうち五)

受験番号

氏名

問題番号

解答欄

四	三	問題番号
	問二	解答欄

kyosai-guild

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点		
問一	ア	りゅうようひつ		各 2 × 5		
	イ	せんきちよくひょう				
	ウ	しゅくいんめい				
	エ	きょえんかんかん				
	オ	きゅうじゅうけん				
問二	ア	二文字以上を続け書きすること。	内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。	各 3 × 5		
	イ	石碑を建てる際、石に直に文字を書くこと。				
	ウ	臨書によって手本とする書を学習した上で、その間架結構、用筆、筆意等の、手本のもつ内容を手本を見ないで再現すること。				
	エ	筆、墨、紙、硯のこと。				
	オ	絹地に描いた書画、またはその絹地。				
問三	ア	書写体	筆写体 もよい。	各 2 × 5		
	イ	箱書				
	ウ	散らし書き				
	エ	乾拓				
	オ	露鋒				
問四	ア	落成款識	順序は問わない。 2つとも合っているものだけを 正答とする。 内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。	2 3 2 各 2 × 2		
	イ	・筆者の証を示す。 ・作品を引き立てる。				
	ウ	廻文			回文 もよい。	
	エ	印泥を付ける際			よく練った印泥を印面にむらなく付ける。	内容を正しくとらえていれば、 表現は異なってもよい。
		押印をする際			印矩を使い、水平に下ろして押印する。	
問五	①	処		各 2 × 5		
	②	諸				
	③	問				
	④	事				
	⑤	同				
問六	ア	a	最澄	伝教大師 もよい。	3	
		b	忽披帖		2	
		c	忽恵帖		2	
		d	王羲之		3	
	イ	嵯峨天皇		順序は問わない。	各 3 × 2	
		橘逸勢				

一

100

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕			採 点 上 の 注 意	配 点	
二	問七	ア	一定の大きさにそろえた料紙を、一枚ずつ表側を中にして半分に折り、折り目の外に当たる周辺部分を糊づけして重ねたもの。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	3
		イ	端正で上品な漢字と繊細で流麗な仮名が見事に調和している。			3
		ウ	おきなかの			5
		エ	以 遠 也 左 支 太 川			7
	問八	ア	字を書くには、心は平正・安穩の状態を貴ぶ。そしてまず用筆に習熟しなければならない。		内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各5×2
		イ	漢印には隷書の心持ちがあるので、動きがあり生き生きとした趣がある。			
三	問一	鑑賞の観点	用筆	内容	順序は問わない。 問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。 鑑賞の観点と内容が対応しているものだけを正答とする。	各6×3
		鑑賞の観点	字形	内容		
		鑑賞の観点	特徴・イメージ	内容		
	問二	書跡名	九成宮醴泉銘			2
表現意図及び表現効果		重厚な「友情」を表現しようとする際には、「顔氏家廟碑」の力感あふれる書風の力強さや壮大さを生かすのに対し、謹厳な「友情」を表現しようとする際には、「九成宮醴泉銘」の凛とした書風の端正さや厳格さを生かす。			10	
					30	

高等学校芸術科（書道）採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 (例)		採 点 上 の 注 意	配 点
次	配当時間	学習活動	指導上の留意事項		
問一	一	1時間 ・ 隸書の特徴を理解する。 ・ 「乙瑛碑」を鑑賞し、特徴を理解する。	・ 扁平な字形や水平な横画による構成、藏鋒による起筆、波磔・波勢を確認させる。 ・ 「乙瑛碑」の力強く堂々とした書風を理解させる。	問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。 学習活動と指導上の留意事項が対応しているものだけを正答とする。	40
	二	2時間 ・ 「立廟」を半紙に臨書する。	・ 臨書することにより、力強い点画、波磔の力強さ、切れ味のある強い線質、重厚で隙のない構えを感じ取らせる。 ・ リズムに乗りながらも力強い線質を表現できるように取り組ませる。		
	三	3時間 ・ 「乙瑛碑」をもとに草稿を作成する。 ・ 「体育祭」を半紙に練習する。	・ 「乙瑛碑」の図版や字典から集字したり、部分どうしを合わせて作字したりして草稿を作成させる。 ・ 作成した草稿をもとに、「体育祭」のイメージに合うように表現を工夫させる。		
	四	2時間 ・ 全体の構成について理解する。 ・ 「体育祭」の清書と自己評価をする。 ・ 清書作品の鑑賞をする。	・ 作品の表現効果をより高めるために、紙面と文字の調和を図り、文字の配置と余白の生かし方、文字の大小、字間のあけ方などに配慮する必要があることを理解させる。 ・ 隸書の特徴を理解して、自己の作品と比較しながら表現を工夫し、全体の構成に気をつけて清書させる。 ・ お互いの作品を鑑賞し、言語活動を通して、感じたことを言葉で表現し、考えを伝えあい深めさせる。		
問二	次の点に留意して書いていること。 ○ 古典の特徴を捉えて表現していること。 ○ 文字のバランス構成を適切に表現していること。				10
問四	<ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じりの書、漢字の書及び仮名の書、さらに、生徒の作品を含む身の回りの書などについて、幅広く関心を抱けるようにすること。 生徒が感じた第一印象を、自らの言葉で表現するだけでなく、その印象をもたらす根拠について考えることができるよう指導すること。 言語活動を通して、感じたことを言葉で表現したり、考えを伝え合い深めたりすること。 生徒の関心や学習状況に応じて、自身の作品や他者の作品を鑑賞の対象とし、表現活動との関連を図った指導を工夫すること。 			2つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてよい。	20